Asian Productivity Organization
“The APO in the News”

Name of publication: Seisansei Shimbun (5 September 2018, Japan)
Page: 6

APO

「不可能を可能に」テーマに
持続可能な生産性サミット

APO（アジア生産性機構）は7月10日、19の加盟国から政策立案者、企業経営者、起業家、研究者等を迎え、第1回「持続可能な生産性サミット」を都内で開催した。

サミットのテーマは〝Shaping the Impossible―不可能を可能に〟。企業の業績や生産性に影響を与える技術が急激に変化していることを背景に、生産性の未来を形作り、各国経済に最大の利益をもたらす「次に来るブーム」と技術を紹介し、今後の指針を提示することを目的に開催された。

当日は、サンティ・カノクタナポーン・APO事務局長の歓迎あいさつ、増島総・外務省国際協力局審議官の冒頭あいさつの後、ウィリアム・D・エガーズ・デロイトセンター・フォー・ガバメント・インサイツ・エグゼクティブディレクターの基調講演、ライアン・ジャンツェン・TransPod共同創立者チーフテクノロジーオフィサー、ニクラス・アルビドション・スウェーデン王立工科大学産業経済・経営学部准教授、アンドリュー・Wリノ・Tinny Farms共同創立者兼CEO、荒川剛・パナソニックビジネスソリューション本部CSR事業推進部SST推進課長によるプレゼンテーションとパネル討議が行われ、ファニット・ラオシリラット・APO副議長の閉会あいさつで終了した。

パネル討議のモデレーターはデヴァダス・クリシュナダス・Future-Movesグループ CEOが務めた。

エガーズ氏は〝Government 2025〟をテーマに基調講演を行った。エガーズ氏は、政府は生産性に対しいろいろな形で役割を果たす一方で、時に障壁になることもあると述べ、労働力や規制の問題について発表した。特に人工知能によって人間の労働力の25～30%が解放されるとし、サイドスキルを再トレーニングするような政府プログラムが重要になると述べた。

ジャンツェン氏は「輸送の未来」をテーマに講演を行った。ジャンツェン氏はトランスポッド、ハイパーループなどの次世代超高速移動システムを、動画を交えて紹介した。アルビドション氏は「未来のキャッシュレス社会」についてスウェーデンを例にとって説明した。同氏によればキャッシュレス化革命は予想以上の速さで進行。スウェーデンでは2023年までに事実上のキャッシュレスになるという。プレンターノ氏は「未来の食料」をテーマに講演した。同氏は世界的な人口増加や深刻な気候変動により多くの人々が食料の安全保障に直面しつつあると問題提起し、精密農業、室内農業、遺伝子工学、昆虫たんぱく源などのソリューションを説明した。荒川氏は「サスティナブル・スマートタウンとスマートハウスの未来」について講演。同社が進める藤沢SSTのデザイン、システム、機能、サービスなどを詳しく説明した。

パネル討議冒頭ではクリシュナダス氏が「どれもエコシステム、パートナーシップをベースに動かされた。かなりのデータとエビデンスに基づいている」などと講演についてコメントを行い、活発な意見交換が行われた。

(生産性新聞　2018 年 9 月 5 日付　6 面)